

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

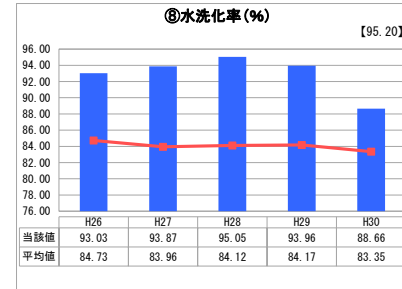
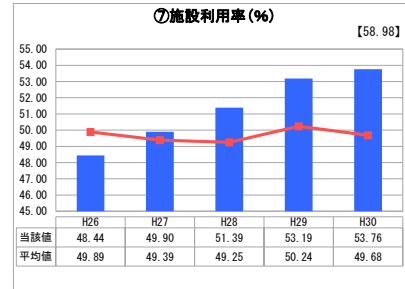
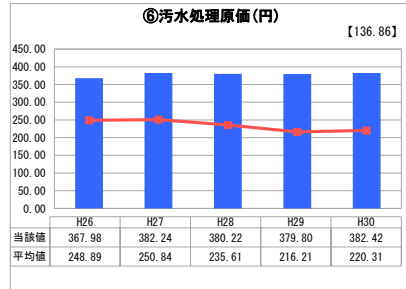
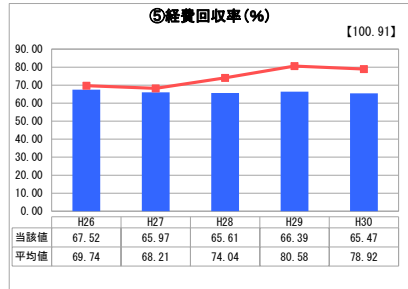
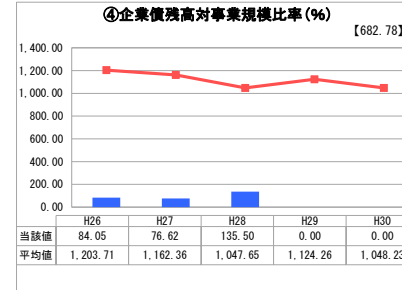
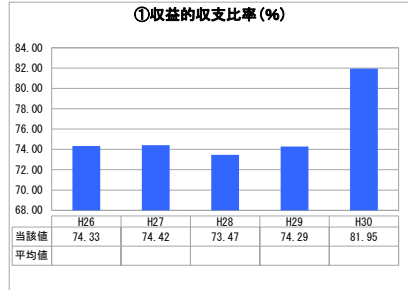
長野県 御代田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	84.58	95.35	4,536

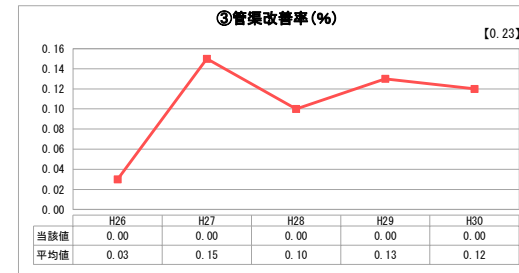
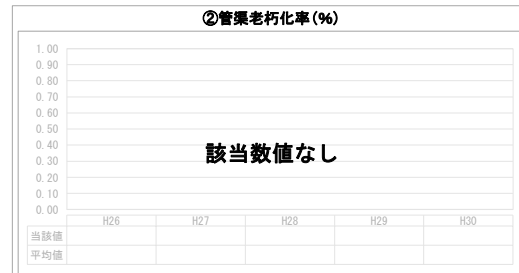
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,569	58.79	264.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,162	7.21	1,825.52

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 収益的収支比率  
年度により増減はありますが、概ね70%台で推移しており、厳しい状況が続いています。経常費用で大きなウエイト占める過去の建設投資に係る元利償還額が増加傾向にあることが大きな要因です。支出が大きい中、繰入金に頼らざるを得なく、使用料収入等の安定確保のための方法が必要です。

④ 企業債残高対事業規模比率  
類似団体の平均値を大きく下回る状況です。企業債残高が少なく、順調に償還が進んでいますが、今後施設の改築更新に多額の費用が必要になることが予想され、その財源として企業債を活用する見込みであることから、将来的な経営の健全化のためにも、この数値の推移には今後も留意が必要です。

⑤ 経費回収率  
当町は60%台で推移しています。類似団体と比較すると、乖離は徐々に大きくなっています。汚水処理に係る費用が使用料以外の収入で賄われているため、適正な使用料設定による収入確保及び汚水処理費の削減が必要です。

⑥ 汚水処理原価  
類似団体の平均値よりも高い水準であり、有収水量1㎡当たりの汚水処理費が高い数値であることから、投資の効率化や維持管理費の削減等の経営改善が必要です。

⑦ 施設利用率  
流入汚水量の増加に伴い、施設利用率は年々向上しています。今後は人口減少に伴い、減少していくことが予想されますが、減少時には適正な運転管理

### 2. 老朽化の状況について

終末処理場については、長寿命化計画に基づく改築更新に着手しています。管渠については、ストックマネジメント計画を策定し、投資の平準化を図りながら、計画的な改築更新に取り組み、今後も適正な維持管理を行ってまいります。

### 全体総括

公共下水道事業を今後も継続的に実施するためには、維持管理費の削減、改築更新の計画的な実施による支出の平準化、水洗化率の向上、適正な料金設定など総合的に取り組み、経営の健全化、効率化を目指す必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。